

TOYO TANSO



Inspiration for Innovation

第66期 株主通信

2007年6月1日～2008年5月31日

証券コード 5310

私たちの炭素の夢は、未来へと無限に広がります。

自然界に広く分布し、紀元前の昔から利用されてきた炭素に魅せられ、
私たちは理想の品質を追求し続けてきました。
以来、炭素の可能性は飛躍的に広がり、数々の画期的な製品が誕生しました。
私たちはバイオニアメーカーとしての実績と信頼をもとに、
さらに炭素の可能性を追求し、世界に貢献します。

シャープでクリーンな造形の中に、鮮烈な印象を
残す確かな存在感を表現しています。バイオニア
メーカーとしてのこれまでの実績と信頼を、更に確
固たるものにしてまいります。



TOYO TANSO
Inspiration for Innovation

「革新へのひらめきがそこにある」

私たちは無限の可能性を秘めた炭素に魅せられ、
理想の品質を追求し研究開発を重ねてきました。
今や炭素の可能性は飛躍的に広がり、半導体、
宇宙航空、医療用途など最先端テクノロジー分野
にも幅広く採用されています。これからも創造力を
磨き続け、画期的な製品開発により社会の革新
に貢献できる企業を目指して、私たちの挑戦は
続きます。

炭素結晶の象徴である6つの正六角形を具現化
しました。時代の変化とともに変容しながら広がって
いく業容と、グローバルに大きく展開していく東洋
炭素を表しています。

次なる成長を目指して布石を打つ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
第66期株主通信をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績につきましては、特に高品質な等方性黒鉛の生産能力増強を背景として、太陽電池関連用途をはじめとする幅広い分野において旺盛な需要を積極的に取り込むとともに、グローバル展開を一段と加速した結果、引き続き増収増益を達成することができました。振り返りますと、過去3年間に於いて売上高で1.5倍、経常利益で2倍以上と、大きな成長を続けてまいりました。

産業の更なる高度化に伴い、高機能で高品質なカーボンに対する期待は、グローバルベースで一段と高まっており、用途領域も益々拡大しております。中でも、太陽電池をはじめとして、原子力・LED関連等、環境・エネルギー関連分野における高機能カーボンの位置付けと役割は、今後とも更に重要性を増すと考えられます。

またこれらの動きはむしろ海外において顕著であり、高機能カーボンのグローバル需要は、中国をはじめとする新興国を中心に今後一段と高まっていくことは間違いありません。

当社はこれらの市場の強い期待に応えるべく、等方性黒鉛の更なる大幅増産を決定し、このたび新設間工場（年4,000t規模、2009年秋より供給開始予定）を着工いたしました。新工場は、1棟の建屋に原料から成形・焼成・黒鉛化の各工程を配した一貫工場で、徹底した自動化・省力化を織り込んだ世界最高水準の品質・コスト競争力を目指した大型プラントです。

当社としてはまずこの新工場の立上げに全力を傾注いたしますが、成長著しいC/Cコンポジット製品やコーティング黒鉛製品等の増強も併せて推進し、更なる高付加価値化・差別化を図るとともに今後の成長への布石を打ってまいります。

原燃料ならびに資材価格の記録的な高騰や為替変動等、景気の先行きは一段と厳しさを増しておりますが、創業以来の「どこにもないモノをつくる」とのパイオニア精神に立ち返り、高機能カーボンのリーディングカンパニーとして、引き続き中長期的な成長と企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2008年8月



代表取締役会長 兼 CEO

近藤 照久

代表取締役社長 兼 COO

近藤 純子

無限の可能性を秘めた炭素

—— 注目度が高まる等方性黒鉛 ——

**東洋炭素の技術は
地球環境の保護、向上に貢献しています**

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素(CO₂)の
排出量削減を目指した取り組みへ、
当社の製造する等方性黒鉛は様々な方面で貢献しています。

人と自然の共存・調和、地球環境保全への貢献

■ 太陽電池の拡大に向けて

クリーンエネルギーの切り札として、全世界で需要が急速に拡大している
太陽電池。この製造過程に必要不可欠な部材として使用されているの
が等方性黒鉛です。

等方性黒鉛は、太陽電池の製造工程で使用されるほか、太陽電池の主
原料である多結晶シリコンの製造用に使用されます。

■ 次世代原子力発電の実用化へ向けて

これまで主力だった火力発電に代わる、地球環境に優しい次世代原子力
発電の1つとして注目されている多目的高温ガス炉。この構造材としても
等方性黒鉛が採用され、現在、実用化へ向けた取組みが急ピッチで進ん
でおります。

高温ガス炉は、発電とともに発生する熱の有効利用や二酸化炭素を排出
することなく水素を製造するといった特長があり、環境に優しい発電システ
ムとして期待が寄せられています。

当社の等方性黒鉛は、日本原子力研究開発機構の多目的高温ガス
炉(HTR)の炉心用構造材として長年にわたる照射データの蓄積の



等方性黒鉛ブロック



臨界プラズマ試験装置 (JT-60)

※写真提供：日本原子力研究開発機構

結果、唯一の認定材として採用されているほか、中国清華大学の実験炉 (HTR-10) にも採用されています。また、太陽エネルギーの地上発生を目的に研究が進められている核融合炉の装置用炉壁材に使用されています。

■地球温暖化への対策として

表面処理加工や半導体の分野で、地球温暖化係数が0 (ゼロ) で地球環境に優しいとして注目されているフッ素ガスを安定供給できるオンサイトフッ素発生装置の開発にも成功し、積極的な販売展開を進めているところです。

当社の製品はこれら環境や次世代エネルギーに関わる分野だけでなく、エレクトロニクス、宇宙航空、医療などの最先端テクノロジー分野で、今や、欠かせない存在となっています。



炭素の可能性はまだまだ未知数 その展開領域は無限に広がっています

■家電、デジタル機器など身近なところから、 最先端テクノロジー分野まで

等方性黒鉛は、家電製品などの金型製造用にも使用されているほか、携帯電話やノートパソコンなどのデジタル機器の内部で活躍する様々な製品の製造段階で使用され、私達の暮らしを身近なところで支えています。また、エレクトロニクス産業の発展には欠かせない半導体の、シリコンウエハーを製造する炉内の主要部材にも、高純度で優れた耐熱性を備える等方性黒鉛が採用されています。

最近では、従来の半導体に比べて消費電力の消費が少なく、地球温暖化防止に寄与するものとして、大きな期待が寄せられているパワー半導体関連用途向けの有力素材として、TaC (炭化タンタル) 被覆黒鉛材を開発し、量産化・本格展開に向け注力しています。



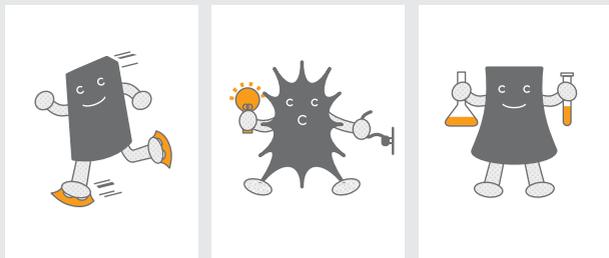
当社のフィールドは、エレクトロニクスからエネルギー、環境ビジネス関連へと、ますます広がりをみせています。

我々は業界のバイオニアとしての高度かつ豊富な要素技術とノウハウをベースに、新たな需要の創出に向けた取り組みを進めるとともに、人と自然との共存、調和を目指し、地球環境の保全に貢献してまいります。

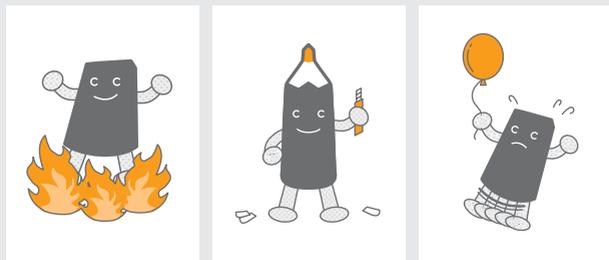
黒鉛とは

黒鉛とは炭素(カーボン、元素記号C)が約3000℃の高温下で結晶化した黒色の鉱物で、グラファイト(石墨)とも呼ばれています。黒い鉛と書きますが、鉛は含まれていません。炭素の間には他にダイヤモンド、木炭、石炭等が古くから知られていますが、最近ではフラーレンやカーボンナノチューブなどの新しい物質も発見されています。整った結晶構造を持ち、電気を良く通す性質がある黒鉛の用途として、身近でよく知られているものには鉛筆の芯や電池の電極などがあります。

炭素の特性

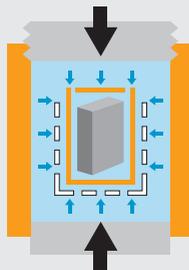


- ①潤滑性が高い (すべりが良い)
- ②電気伝導性・熱伝導性が高い (熱や電気を伝えやすい)
- ③耐薬品性がある (薬品に対しても変化しにくい)



- ④耐熱性が高い (高温に耐えることができる)
- ⑤加工性が良い (加工しやすい)
- ⑥軽量 (金属に比べ低密度=軽量)

等方性黒鉛とは



水圧で全方向から均等に加圧



黒鉛は時代の進化とともに、より高機能で安定した特性が求められるようになってきました。

当社では、理想的な黒鉛の研究開発を重ね、1974(昭和49)年、業界に先駆けて静水圧成形法(水中で圧力かける成形法)を人造黒鉛の製造に利用し、等方性黒鉛の量産化に成功しました。

この静水圧成形法とは、水圧を利用して全ての方向から均等な力を加えて黒鉛を成形する製法です。これによって、粒子が均一に整った高品質な等方性黒鉛の大量生産が可能となりました。当社は等方性黒鉛のパイオニアとして、現在でも世界最大の生産量を誇るリーディングカンパニーです。

等方性黒鉛の特性

- ①熱膨張性などの特性がすべての方向に均一
- ②微粒子構造で高強度
- ③材料の特性ばらつきが非常に小さい

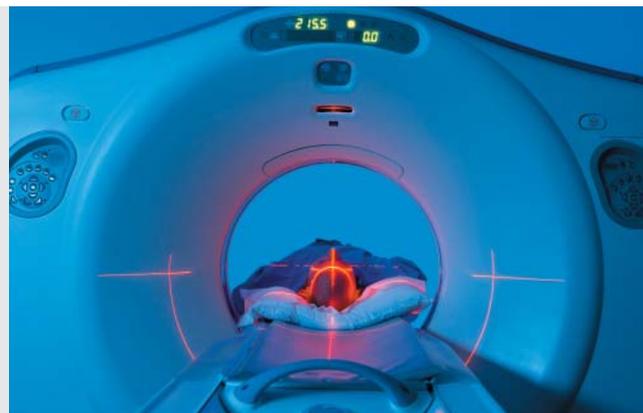


病院で、見かけるドーナツ型の大きな検査装置をご存知でしょうか。様々な病気や体の状態を診断するために使用されるCT装置と呼ばれるものです。CTとはコンピューター断層撮影(Computed Tomography)の略で、X線により360度の方向から体を撮影することにより、体の様々な角度の断層図や立体的な3D画像を作成することができます。

実は、このCT装置の中にも当社の高純度黒鉛が使用されているのです。X線を発生する動きを持ち、CT装置の心臓部とも言えるX線管という非常に重要な部品の中に当社の製品は組み込まれています。X線管の中には、ターゲット材と呼ばれる円盤状の部品があり、そこに電子



ターゲット材



線を照射することにより、X線が発生する仕組みとなっているのですが、このターゲット材にタングステン-レニウム合金を表面コーティングした高純度黒鉛が使用されています。もともとは、モリブデンという金属が使用されていましたが、毎分1万回転以上の超高速回転で生じる遠心力に耐える高強度を有し、高純度処理によって不純物の低減が可能な点や、電子線が照射されて高温になるコーティング面の熱を高い熱伝導率により速く逃がすことができる等、当社の等方性黒鉛の数々の優れた特性が認められ、現在の使用に至っております。

CT装置は撮影時の苦痛がほとんどなく、短時間で多くの情報を得ることができるため、医療現場に欠かすことのできない装置として、まだ先進医療が普及していない地域にもこれからますます増えていくことが予想されます。

このようにカーボンは、私たちの健康な生活を影ながらも、しっかりと支えています。

トピックス

各国の展示会に出展

地球環境に優しいクリーンエネルギーの一つとして、「太陽光発電」「太陽電池」は世界的に注目を集めており、世界各国にて大規模な展示会が開催されています。当社にとりましても注力分野であるため、新規顧客の開拓、当社製品・技術の優位性アピール等を目的に、積極的に展示会への出展を行っています。

2008年2月には東京ビックサイトにて開催された、太陽電池業

界では世界最大規模の「第1回国際太陽電池展PVEXPO 2008」に出展、C/Cコンポジット製のろつばやプレート、黒鉛部材のヒーター、サブスター等を展示し、当社ブースには1000名以上の来訪がありました。また3月には中国 上海市にて開催の「SEMICON CHINA 2008」に、5月には韓国 大邱(デグ)市にて開催の「韓国グリーンエネルギーエキスポ2008」にそれぞれ出展し、多数の来訪者を迎え、盛況を博しました。



東京(国際太陽電池展PVEXPO2008)

連結業績概要

当連結会計年度の日本経済は、好調な企業収益を背景とした高水準の設備投資と旺盛な輸出に支えられ、景気は引き続き緩やかながら拡大基調で推移いたしました。その一方で、特に年度後半からの為替の急激な変動や原油等の原燃料価格の一段の高騰等を背景に、減速懸念が出始めております。また海外経済についても、アジアを牽引役として総じて堅調に推移いたしました。米、国サブプライムローン問題に端を発する世界的な金融市場の混乱も含めて、先行き不透明感が顕在化するところとなりました。

このような状況の中、当企業グループといたしましては、主力製品である等方性黒鉛製品の生産能力増強を背景として、国内外の旺盛な需要を積極的に取り込むとともに、成長分野へのシフトと高付加価値化を引き続き推進いたしました。また、特に成長著しい中国市場において、太陽電池を中心とする高機能分野に特化した新拠点が本格稼働する等グローバル展開を一段と加速し、更なる事業拡大と収益の向上に努めました。

	当期 (平成19年6月1日から 平成20年5月31日まで)	ご参考	
		前期 (平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)	対前期比
売上高	34,531百万円	31,381百万円	10.0%増
営業利益	8,031百万円	6,925百万円	16.0%増
経常利益	7,795百万円	7,123百万円	9.4%増
当期純利益	5,143百万円	4,439百万円	15.9%増

事業内容

■ 特殊黒鉛製品

特殊黒鉛製品は主に等方性黒鉛を使用しています。エレクトロニクス分野では単結晶シリコン製造用、化合物半導体製造用、太陽電池製造用等に使用されており、一般産業分野では金属溶解等の冶金関連や各種工業炉向けの高温発熱体および炉内構造材、金型製造時の放電加工電極等に使用されています。このほか、原子力、宇宙航空、医療用分野など幅広い分野で使用されています。



ヒーター



連続製造用ダイス

■ 一般カーボン製品

主に従来の成型法で製造された炭素材料を使用しています。機械用カーボン分野ではポンプやコンプレッサーの軸受け等のしゅう動部品や、気体や液体のシール材として使用されており、輸送機器用では、鉄道のパンタグラフ用すり板として主に使用されています。電気用カーボン分野では掃除機や電動工具等の民生用途における小型カーボンブラシや、産業用途における大型カーボンブラシに使用されています。



ベアリング



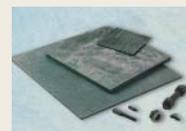
パンタグラフ用すり板

■ 複合材その他製品

等方性黒鉛材料を基材に他の材質をコーティングした複合材料であるSiCコーティング黒鉛製品のほか、カーボンとカーボンファイバーとの複合材料であるC/Cコンポジット製品、天然黒鉛を原料とする黒鉛シート等を製造販売しております。



エピソードター



C/Cコンポジット製品(2次元織タイプ)

主要製品



るつぼ



封筒用治具



放電加工用電極



原子力用炉心材



バックリン



シールリング



大型ブラシ



小型ブラシ



MOCVDサセプター



工業用ガスケットおよびシール材



C/Cコンポジット製品(るつぼ)



C/Cコンポジット製品(角型るつぼ)

事業概況

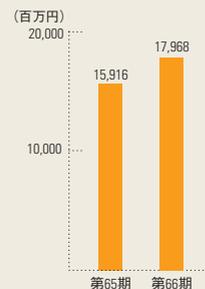
エレクトロニクス分野は、特に太陽電池製造用途で、伸長が著しい中国を中心に各地域で需要が大幅に拡大しました。単結晶シリコン製造用途では、300mmウエハー向け需要が引き続き伸長しました。一般産業分野は、放電加工電極用途で、超微粒子構造の高機能黒鉛材が特に海外で順調に拡大したほか、連続铸造用等の冶金関連、工業炉関連の需要など、総じて底堅く推移しました。

機械用カーボン分野は、軸受け、シール材等の一般産業機械用途で、底堅い設備投資と石化プラントの稼働率アップ等を背景に需要が着実に増加しました。またバンタグラフ用すり板は私鉄、新交通への展開が進みました。電気用カーボン分野は、中国の現地法人を核として家電モーター用小型カーボンブラシが拡大したことや、電動工具・洗濯機向けの拡販が進展し全体として堅調に推移しました。

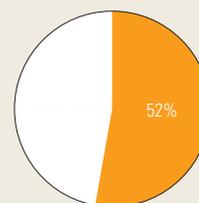
SiCコーティング黒鉛製品は、LED(発光ダイオード)素子製造用サセプターを中心とする化合物半導体向けの需要が国内外で伸長しました。C/Cコンポジット製品は300mmウエハー製造用途の需要拡大が寄与しました。黒鉛シート製品も新たに放熱分野の拡販が進む等、着実に需要が増加しました。その他製品ではオンサイトフッ素発生装置の本格展開に向け注力中です。

売上高・売上高構成比

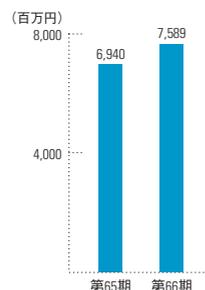
特殊黒鉛製品の売上高



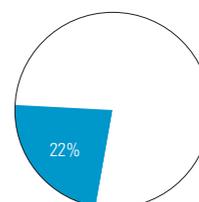
第66期売上高構成比



一般カーボン製品の売上高



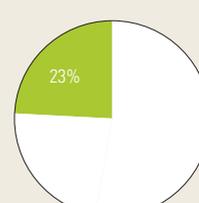
第66期売上高構成比



複合材その他製品の売上高

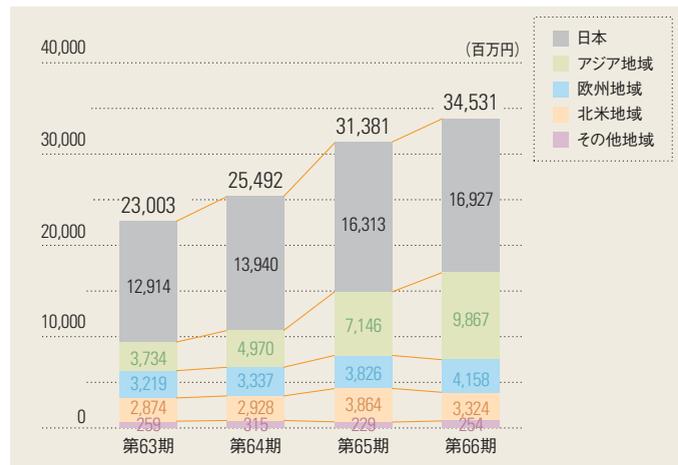


第66期売上高構成比



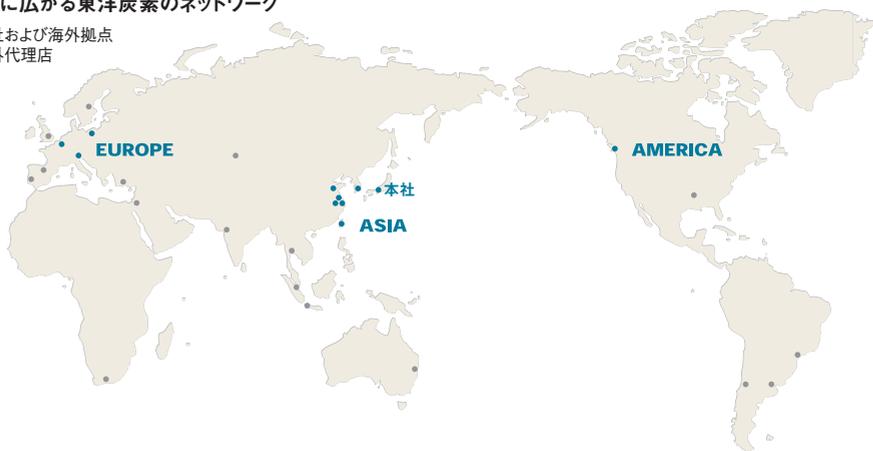
グローバル化の進展によりアジアを中心に海外売上高が拡大。 海外売上高比率51.0%

地域別の売上高



世界に広がる東洋炭素のネットワーク

- 本社および海外拠点
- 海外代理店



事業拠点 (2008年5月31日現在)

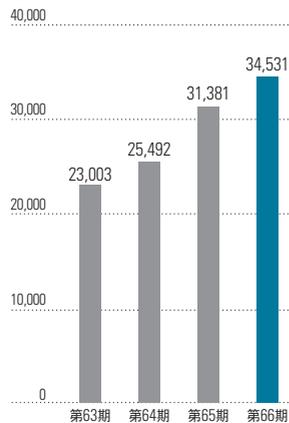
- 国内事業所
 - 本社・大阪営業所・海外営業部
 - 東京営業所
 - 東北営業所
 - つくば営業所
 - 北陸営業所
 - 静岡営業所
 - 名古屋営業所
 - 広島営業所
 - 四国営業所
 - 九州営業所
 - 近藤照久記念東洋炭素総合開発センター
 - 東洋炭素生産技術センター
 - 諺問事業所
 - 萩原工場
 - いわき工場

- 国内関係会社
 - 東炭化工株式会社
 - 大和田カーボン工業株式会社

- 海外主要関係会社
 - TOYO TANSO USA, INC. (アメリカ)
 - GTD GRAPHIT TECHNOLOGIE GmbH (ドイツ)
 - TOYO TANSO EUROPE S.p.A. (イタリア)
 - TOYO TANSO FRANCE S.A. (フランス)
 - SHANGHAI TOYO TANSO CO., LTD. (中国)
 - SHANGHAI YONGXIN TOYO TANSO CO., LTD. (中国)
 - SHANGHAI TOYO TANSO INDUSTRIAL CO., LTD. (中国)
 - JIAXIANG TOYO TANSO CO.,LTD. (中国)
 - TOYO TANSO TAIWAN CO., LTD. (台湾)
 - TOYO TANSO KOREA CO., LTD. (韓国)

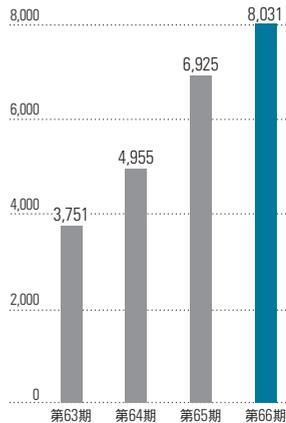
売上高

(百万円)



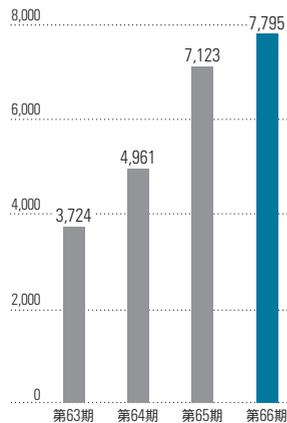
営業利益

(百万円)



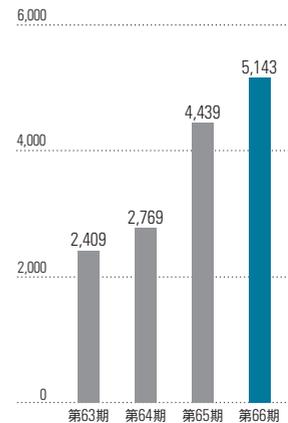
経常利益

(百万円)



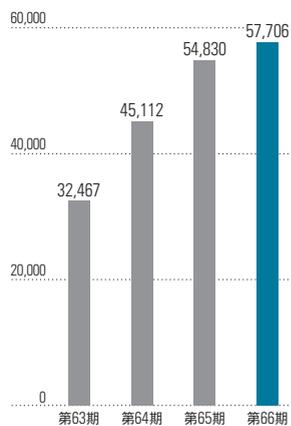
当期純利益

(百万円)



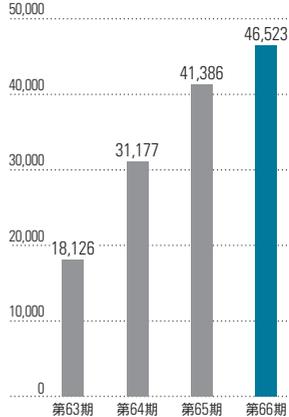
総資産

(百万円)



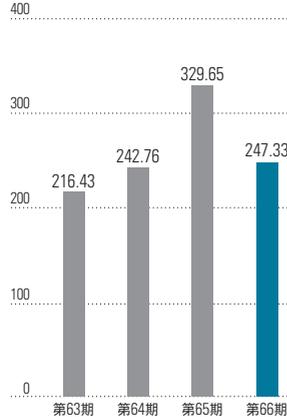
純資産

(百万円)



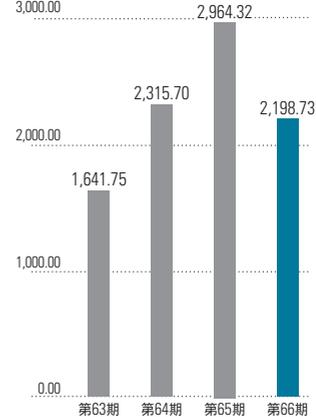
1株当たり当期純利益

(円)



1株当たり純資産

(円)



(※) 当社では、第63期(平成16年12月22日)に1:4、第66期(平成19年6月1日)に1:1.5の株式分割をそれぞれ行っております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当期末 (平成20年5月31日現在)	前期末 (平成19年5月31日現在)
資産の部		
流動資産	32,982,561	32,852,928
固定資産	24,723,995	21,977,717
有形固定資産	21,269,806	19,633,011
無形固定資産	376,647	287,026
投資その他の資産	3,077,541	2,057,678
資産合計	57,706,556	54,830,645
負債の部		
流動負債	9,462,020	10,861,789
固定負債	1,720,938	2,582,262
負債合計	11,182,958	13,444,052
純資産の部		
株主資本	45,731,968	40,740,858
評価・換算差額等	△125,598	245,509
少数株主持分	917,228	400,224
純資産合計	46,523,598	41,386,593
負債・純資産合計	57,706,556	54,830,645

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当期 (平成19年6月1日から 平成20年5月31日まで)	前期 (平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)
売上高	34,531,125	31,381,259
売上原価	20,315,595	18,853,152
売上総利益	14,215,530	12,528,106
販売費及び一般管理費	6,183,597	5,602,463
営業利益	8,031,932	6,925,643
営業外収益	249,456	425,397
営業外費用	485,729	227,212
経常利益	7,795,659	7,123,828
特別利益	442,701	586,556
特別損失	75,898	195,394
税金等調整前当期純利益	8,162,461	7,514,989
法人税、住民税及び事業税	2,558,886	2,746,741
法人税等調整額	103,687	242,426
少数株主利益	356,231	86,238
当期純利益	5,143,656	4,439,582

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

	当期	前期
	(平成19年6月1日から平成20年5月31日まで)	(平成18年6月1日から平成19年5月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,635,243	4,993,152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,924,101	△1,635,659
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,753,573	3,292,037
現金及び現金同等物に係る換算差額	△101,182	41,804
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△1,143,613	6,691,334
現金及び現金同等物の期首残高	11,558,559	4,867,225
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	76,943	—
現金及び現金同等物の期末残高	10,491,890	11,558,559

POINT ①……資産

売上高の増加に伴う受取手形および売掛金1,049百万円の増加、ならびに等方性黒鉛および後工程、付加価値工程の増設等に伴う有形固定資産1,636百万円の増加等により、資産合計は2,875百万円の増加。

POINT ②……負債・純資産等

借入金1,594百万円の減少、設備関係支払手形882百万円の減少等により、負債合計は2,261百万円減少。当期純利益5,143百万円の計上等により、純資産合計は5,137百万円の増加。

POINT ③……損益

生産能力増強を背景に、国内外の旺盛な需要を積極的に取り込むとともに、成長分野へのシフトと高付加価値化、グローバル展開の推進等により、収益の向上に努めた結果、急激な円高の影響や減価償却費の大幅増等のマイナス要因を吸収し、売上高3,149百万円増加、営業利益1,106百万円増加、経常利益671百万円増加、当期純利益704百万円増加。

連結株主資本等変動計算書(要旨) (平成19年6月1日から平成20年5月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成19年5月31日残高	7,692,575	9,534,686	23,522,911	△9,314	40,740,858	245,509	400,224	41,386,593
連結会計年度中の変動額								
連結子会社増加にともなう連結剰余金増加高			74,016		74,016			74,016
剰余金の配当			△165,918		△165,918			△165,918
利益処分による従業員賞与 ^(※)			△16,361		△16,361			△16,361
当期純利益			5,143,656		5,143,656			5,143,656
自己株式の取得				△44,284	△44,284			△44,284
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△371,108	517,003	145,895
連結会計年度中の変動額合計	—	—	5,035,394	△44,284	4,991,109	△371,108	517,003	5,137,004
平成20年5月31日残高	7,692,575	9,534,686	28,558,305	△53,599	45,731,968	△125,598	917,228	46,523,598

(※) 中国子会社および台湾子会社の利益処分による支払決議にともなうものです。

貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当期末 (平成20年5月31日現在)	前期末 (平成19年5月31日現在)
資産の部		
流動資産	24,974,449	26,891,556
固定資産	23,739,465	20,321,967
有形固定資産	16,157,006	15,105,773
無形固定資産	136,423	107,786
投資その他の資産	7,446,035	5,108,408
資産合計	48,713,915	47,213,524
負債の部		
流動負債	7,933,807	8,820,025
固定負債	930,009	1,239,758
負債合計	8,863,816	10,059,784
純資産の部		
株主資本	39,820,413	37,128,431
評価・換算差額等	29,684	25,309
純資産合計	39,850,098	37,153,740
負債・純資産合計	48,713,915	47,213,524

損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当期 (平成19年6月1日から 平成20年5月31日まで)	前期 (平成18年6月1日から 平成19年5月31日まで)
売上高	26,222,467	23,807,440
売上原価	17,269,240	15,064,465
売上総利益	8,953,226	8,742,974
販売費及び一般管理費	4,504,325	3,781,997
営業利益	4,448,900	4,960,977
営業外収益	348,946	374,575
営業外費用	491,130	143,672
経常利益	4,306,716	5,191,879
特別利益	445,725	559,413
特別損失	67,708	57,352
税引前当期純利益	4,684,734	5,693,941
法人税、住民税及び事業税	1,703,000	2,250,000
法人税等調整額	79,548	35,080
当期純利益	2,902,185	3,408,860

株主資本等変動計算書(要旨) (平成19年6月1日から平成20年5月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
平成19年5月31日残高	7,692,575	9,534,686	19,910,483	△9,314	37,128,431	25,309	37,153,740
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△165,918		△165,918		△165,918
当期純利益			2,902,185		2,902,185		2,902,185
自己株式の取得				△44,284	△44,284		△44,284
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						4,375	4,375
事業年度中の変動額合計	—	—	2,736,267	△44,284	2,691,982	4,375	2,696,358
平成20年5月31日残高	7,692,575	9,534,686	22,646,750	△53,599	39,820,413	29,684	39,850,098

株式の状況

(平成20年5月31日現在)

発行済株式の総数	20,750,688株
単元株式数	100株
株主数	7,823名

大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
近藤純子	2,792	13.45
近藤照久	2,503	12.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,959	9.44
近藤朋子	1,560	7.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,357	6.54
近藤尚孝	1,214	5.85
財団法人近藤育英会	834	4.01
近藤孝子	533	2.56
株式会社みずほ銀行	360	1.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	360	1.73
株式会社百十四銀行	336	1.61

会社概要

(平成20年5月31日現在)

設立	昭和22年7月31日
本社	〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-10 梅田ダイビル10階
資本金	7,692,575,648円
従業員数	903名(単体) 1,882名(連結)

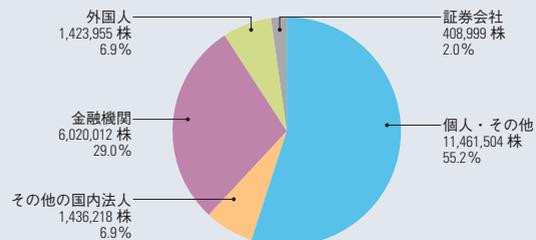
役員

(平成20年8月28日現在)

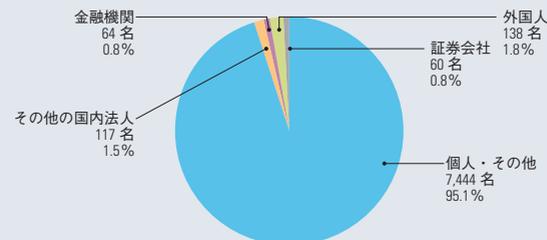
代表取締役会長 最高経営責任者(CEO)	近藤照久
代表取締役社長 最高執行責任者(COO)	近藤純子
代表取締役副社長	近藤尚孝
取締役	平賀俊作
取締役	東城哲朗
取締役	松本強資
取締役	中原全生
取締役	三木相煥
常勤監査役	加藤澄雄
監査役	福井進吾
監査役	江戸陽忠
監査役	田辺陽一

(注) 監査役 福井進吾氏、江戸忠氏および田辺陽一氏は社外監査役です。

所有者別株式数分布状況



所有者別株主分布状況



株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月
基準日	
定時株主総会	毎年5月31日
期末配当	毎年5月31日
中間配当	毎年11月30日
公告方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
電子公告掲載 ホームページアドレス	http://www.toyotanso.co.jp
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜二丁目2番21号 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店
郵便物送付先	〒168-0063
電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (証券代行事務センター) 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
上場証券取引市場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	5310
